

## 口頭試問の練習をしよう！

面接官：（ノック）どうぞ。

ボン：失礼します（ドアを開ける）。

面：こちらへどうぞ。

ボン：はい（面接官の前に進む）失礼します（いすに座る）。

面：受験番号とお名前をお願いします。

ボン：はい、受験番号は1001番で、ボン・ジーンと申します。よろしくお願いいたします。

面：1001のボン・ジーンさんですね。では、これから面接試験を始めます。

ボン：はい。

面：お国はどちらですか。

ボン：サムアツのヨホーという所です。

面：どうして、日本に留学しようと思ったのですか。

ボン：はい、私はトヨタ自動車がロシアで成功していることを参考にして、ハレハレ自動車サントペテルブルグ工場の経営移転について研究したいと考えています。トヨタに関する資料を集めるには日本が最適です。それで日本に来ました。

面：そうですか。トヨタの情報を集めるために日本で研究するのは分かります。しかし、あなたの研究対象はハレハレ自動車のロシア工場ですね。日本よりロシアに留学したほうがいいではありませんか。

ボン：はい、確かに日本だとハレハレのデータを集めるのは大変です。ですから、ハレハレのデータについては、実際にサントペテルブルグ工場まで行って取ってくる予定です。ハレハレ・ロシアには知人がいて、データ収集をさせてくれることになっています。ただ、どういう観点でデータを集めるかとか、どのようにデータを分析するかということについては、トヨタを対象にした先行研究をいろいろと参考にしようと思っています。トヨタの経営については多くの研究があるので、研究を進めるにはやはり日本が一番いいと考えています。

面：なるほど。では、どうしてこの大学を受けようと思ったのですか。

ボン：はい、ハレハレのサントペテルブルグ工場ではサムアツ人とロシア人が一緒に働いていることから、私は異文化に属する従業員同士の部門間コミュニケーションを調査するつもりです。こちらの大学院の海渡先生は「経営の海外移転」がご専門で、日系企業の海外事業所を対象にフィールドワークを続けていらっしゃいます。ですから、ぜひ海渡先生の下で研究したいと考えています。

それから、こちらの研究科にはロシア経済に詳しい北田先生がいらっしゃいます。ロシアの自動車事情について研究するためには、経営だけでなくロシアの経済も学ぶ必要があります。

それで、私はこちらの大学院に進学したいと思っています。

面：そうですか。ボンさんの研究計画ではハレハレのサントペテルブルグ工場での部門間コミュニケーションを調査するということですが、工場にはいろいろな部門がありますよね。修士課程の2年間で全部調査するつもりですか。

ボン：いいえ…、先生がおっしゃる通り、工場にはいろんな部門がありますから、2年間で全部の部門を見ることはできないと思います。ですから、まず製造部門と部品調達部門の間のコミュニケーションを調べたいと考えています。なぜこの2つかというと、工場ではやはり製造部門が中心になるということと、部品調達は製造に直接影響するということからです。この2つの部署を対象に調査できるかどうかは、これからハレハレ・ロシアの知人をお願いしようと思っています。

面：わかりました。では次の質問ですが、大学では何を専攻していましたか。

ボン：はい、大学ではロシア語とロシア文学を専攻していました。在学中に1年間、語学のスキルアップのためロシアに留学もしました。ですから、ハレハレのサントペテルブルグ工場でデータを取るときに

はロシア語の力を生かすことができると思っています。

また、一般教養科目として「異文化コミュニケーション学」や「統計学」も履修しました。それらの知識も、これからの研究に活用できると思っています。

面：ええと、大学では経営を専攻していたのではないのですね。どうして学部専攻と違う研究科に進もうと思ったのですか。

ボン：はい、ロシアに語学留学して、ロシア国内の外国車市場に興味を持ったのがきっかけです。私が留学していたとき、ロシアはまだ国産車が多かったのですが、トヨタの車だけはとても人気がありました。それに対して、サムアツのハレハレ自動車に乗っている人はいませんでした。それなのに、ハレハレも2009年から現地工場で製造を始めるというニュースを聞いて、心配になりました。そして、ハレハレとトヨタの経営を比較する必要があると考えました。それで、大学院では専門をロシア語から異文化経営に変えて研究することにしました。経営学の基礎知識については、サムアツの大学で経営学部には友人に教科書を譲ってもらい、自分で勉強しました。

面：ロシア語がよくできるということはわかりましたが、英語はどのぐらいできますか。

ボン：はい、英語は小学校4年生のときから学校で勉強し、大学時代は第2外国語として履修していました。今も、日本語学校で週に5時間、英文和訳のしかたを中心とした授業を受けています。会話はロシア語のように得意とは言えませんが、読むことや書くことは辞書を使えば大丈夫です。3か月前に受験したTOEFL (IBT) の成績は73点でした。

面：そうですか。では次の質問ですが、大学院在学中の支弁計画はどのようになっていますか。

ボン：すみません、もう一度おっしゃっていただけませんか。

面：大学院在学中の支弁計画はどのようになっていますか。

ボン：すみません、大学院在学中の…、何でしょうか。

面：支弁計画です。学費や生活費をどなたがどのように出す予定か、ということですが。

ボン：(言葉の意味がわかって) ああ、すみません。それでしたら、国の両親に出してもらおうことになっています。

面：アルバイトはしていますか。

ボン：はい、ときどきサムアツ語とロシア語の翻訳のアルバイトをしています。両親への負担を考えると、大学院に進学した後も無理のない範囲で続けたいと思っています。

面：大学院の間は、アルバイトをする時間はないと思いますが。

ボン：そうですか。それでしたら、もともと両親が全額出してくれることになっているので、そのお金で勉強をしたいと思います。

面：わかりました。では、これでこちらからの質問は終わりですが、ボンさんの方から聞いておきたいことがあれば、どうぞ。

ボン：はい。あの一、できれば国の両親の負担を少しでも軽くしたいと思うのですが、こちらの大学院には奨学金の制度はありますか。

面：ええ、学内には授業料の減免制度があります。それから、日本学生支援機構の奨学金を受けている学生もいます。ただ、こちらは国からの仕送りが9万円以下という条件があります。他には、成績優秀な学生に対して民間団体が奨学金を出してくれることもあります。

ボン：わかりました。もしこちらの学生になれば、奨学金をいただけるように勉強に力を注いでいきたいと思っています。ありがとうございます。

面：じゃ、他になければこれで終わりにしましょう。

ボン：ありがとうございました。(席を立つ)

失礼します。(部屋を出る)